



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

2022  
March  
No. 194

# 士会だより



## 第61回 近畿理学療法学術大会が開催されました

### \*\*\*\*\* Index \*\*\*\*\*

・ 巻頭言 .....	2
・ 第61回 近畿理学療法学術大会が開催されました .....	3-5
・ 東京2020パラリンピック競技大会 日本代表アスリートへのインタビュー(前編) .....	6-10
・ 各部だより .....	11-14
・ INFORMATION .....	15-17
・ 会長行動録 .....	18-19
・ 兵庫県で活躍する理学療法士 ～数珠繋ぎ～ .....	20



## リモート対応と理学療法士

一般社団法人兵庫県理学療法士会  
副会長 山本 克己

第61回近畿理学療法学会が兵庫県理学療法士会担当のもと、1月16日に開催され、1943名の参加をいただき、特に大きな支障もなく無事終了できました。会員の皆様方のご参加、ご協力に感謝申し上げます。さて、コロナ禍がなかなか収まりを見せない中で、私たちの生活もコロナ前とかなり様相が変わってきました。前述の近畿学会も初めてオールリモートで開催し、2千人規模の学会がこのような形態で開催されることに、コロナ前と比較して隔世の感があります。企業においても在宅・リモート勤務、フレックスタイムの導入など、以前からライフスタイルの勤務形態の変革が提唱されてきましたが、ここに来て一気に進展してきました。兵庫県理学療法士会でも、リモート会議の導入をコロナ前より検討してきましたが、会議のみならず、研修会までほぼリモートで開催している状況となりました。

少子高齢化や人口減少による働き手の不足が懸念される中で、この新しい勤務形態はワークライフバランスの充実、在宅ワークや子育て世代の就業促進など、潜在的な就業需要を掘り起こすものとして期待されています。反面、職場における人間関係の形成や、勤務とプライベート時間のオン・オフの切替の難しさなどのデメリットも指摘されています。

理学療法士の業務は、患者様や利用者様の対面的、個人的な対応が主体で、このリモート対応にはなじみにくいものです。一部、介護予防や健康増進分野などでは集団的な対応が可能な場合でも、理学療法士としては、ほぼ個(一人)での対応です。感染リスクや就業条件など、整備しなければならない課題はありますが、逆にこのような状況でも個の対応が求められるということが、理学療法士の強みでもあると考えます。ICTやDXの進展の中で、今後も遠隔診療やAI、ロボットなど先進技術の導入は各所で進んでいくと思われませんが、他に代えがたい職種としてのスキルを持ち、患者様や利用者様への真摯な対応こそ、私たちの真骨頂です。理学療法士は「医療系職種の2040年需要予想ランキング」(ダイヤモンド社)では需要が増加する職業の第1位となっています。このような社会の負託に応えるべく、理学療法士の有用性を世に示していきたいものです。

大学院 医療科学研究科

職業実践力育成プログラム  
Brush up Program for professional

PT・OT臨床力  
ステップアッププログラム

リハビリテーション科学  
課題研究コース

本プログラムは、職業に必要な能力向上の機会拡大を目的として、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣が認定し、奨励しています。

西日本を代表する医療総合大学へ  
Leading Health Science Innovation

学校法人 兵庫医科大学  
兵庫医療大学

〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6  
★大学に関するお問い合わせ ☎078-304-3034

医療・福祉の仕事を通じて誰かの力になりたい。

その夢を叶える学校です。

神戸医療福祉専門学校中央校  
【介護福祉士科】 【鍼灸科】 【精神保健福祉士科】  
〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目5番3号  
URL: <https://www.kmw.ac.jp>

神戸医療福祉専門学校三田校  
【理学療法士科】 【作業療法士科】 【言語聴覚士科】  
【医療秘書科】 【看護福祉士科】 【保健福祉士科】  
【高齢福祉士科】 【整形科】 【整形外科1年制】  
〒669-1313 三田市福高501-85  
URL: <https://www.kmw.ac.jp>

拓路医療専門学校  
【作業療法士科】 【言語聴覚士科】 【臨床工学技士科】  
【医療秘書科】  
〒670-0927 阪南市新野町722  
URL: <https://www.hmc.ac.jp>

# 第61回近畿理学療法学会 開催！

Congress of the  
Kinki Physical Therapy in Hyogo The 61

令和4年1月16日(日)に第61回近畿理学療法学会が兵庫県理学療法士会担当のもと開催されました。コロナ禍ということもあり、今大会は完全WEB開催となりました、兵庫や近畿だけでなく全国から2000名近くの先生方にご参加いただくことができました。今回の近畿学会に導入されたシステム「Event Hub」の活用によって、ライブ配信はもちろん、アーカイブ機能により期間限定での繰り返し視聴講が可能であったり、また、ライブ掲示板機能による質問や参加者同士の交流を図れたり、これまでにない形式で進行されました。さらに、学会前にもプレイベントとして3つの限定ライブも開催され、お得感満載のシステムでした。

今大会のテーマは、「新しい知見・技術と理学療法の新展開」で、AI・IGTなどを活用した医療連携ツールや、新たな知見を応用した評価方法・治療法が導入されている昨今、これらを柔軟に取り入れ、効果的・効率的な理学療法に繋げていくことが求められています。

今大会は、大会長基調講演、シンポジウム7セッション、パネルディスカッション2セッション、教育講演8セッション、症例報告セッションと内容が多岐にわたりました。一部抜粋して学会報告をさせていただきます。

## 大会長基調講演

### 【姿勢による換気変化、その基本的な原理と最新の知見】

大会長である間瀬 教史先生にご講演頂きました。腹腔・胸腔の形状を1.呼吸運動、2.背臥位からベッドアップおよび直立位、3.腹臥位、4.側臥位、5.支持前傾位の姿勢に分けて、姿勢による換気変化の基本的原理と最新の知見についてご講演頂きました。健常人と急性呼吸不全患者との比較も示されており、肺気量位に関しても重力、肺以外の心臓や腹部臓器、さらに呼吸筋力にも影響を受け肺野の各部位ごとに変化があることをアニメーションを通して理解することができました。我々が臨床の中でもSpO<sub>2</sub>といった点に着目しやすいと思いますが、肺のコンプライアンスや抵抗といった面も着目することの重要性を感じました。



## 協会シンポジウム

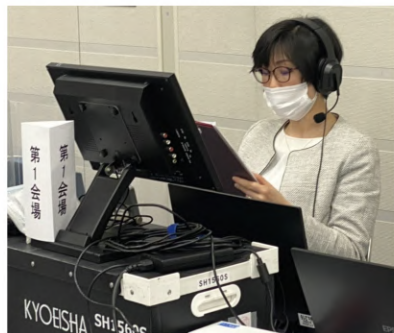
### 【2024年同時改訂を巡る我々、理学療法士の危機】

齊藤 秀之先生(日本理学療法士協会会長)、半田 一登先生(日本理学療法士連盟会長)、小川 克巳先生(参議院議員参議院厚生労働委員長)にご講演頂きました。報酬改定に翻弄された理学療法士の歴史から議員連盟設立までの経過、そして我々が今まさに直面している2024年同時改訂の危機といった点についてお話頂きました。我々理学療法士の中から国会議員が誕生する前の段階、国会議員を誕生させる組織力を持った日本理学療法士協会であるという社会的認知を高めることも大切であるというお話もありました。安全保障を実現するために一人一人の理学療法士ができることについて「全国の理学療法士の代表である」という自覚を持ち、国民のために自分の技術を提供することに邁進することを前提に、それらを発信するという作業が大切であるとのことでした。理学療法士の未来創造のため、一人一人の意識改革の必要性を感じました。

## 大会テーマ特別シンポジウム

### 【最新の研究成果から考える理学療法の新展開】

今回のシンポジウムでは「体性感覚と皮質活動」、「運動器理学療法の可能性を拓く」、「脳卒中歩行再建におけるリハビリテーションの可能性を拓く - エビデンスと今後の課題-」「心疾患に対する理学療法～時代の変遷とともに～」というテーマでそれぞれの分野のスペシャリストである大西 秀明先生、森山 英樹先生、脇田 正徳先生、井澤 和夫先生にご講演頂きました。今回の学会テーマでもある「新展開」といった点で、各分野での最新の知見や、分野毎の新しい可能性について非常に分かりやすくお話ししていただきました。各々の分野でのお話もちろんですが、先生方のご講演で共通して、基礎研究と臨床研究の重要性、技術における共通項を見出して個別化した理学療法を実践することの重要性、臨床的な評価の必要性という点を深く学ぶことができました。スペシャリストのディスカッションをまとめてお聞きできる機会も少ない為、非常に臨床の糧になった先生も多いのではないのでしょうか。



### パネルディスカッション

#### 【脳卒中医学療法にはなぜエビデンスが活用されないのか】

急性期を代表して野添 匡史先生、回復期を代表して生野 公貴先生、生活期を代表して石垣 智也先生による、講演とディスカッションが行われました。障害別、症状別、病期別など細かいレベルでみたアルゴリズムがリハビリテーションを難しくしており、またガイドラインの解釈を難しくしていることが、エビデンスを活用することができない一つの理由になっているのではないかとのことでした。また、ガイドラインの情報を鵜呑みにし、対症療法になってしまわないよう一例一例の個別性と比較していくことが重要ですが、多岐にわたる障害像を一人で全て把握するのは困難であるため、現場で・施設単位で・自施設という状況の中でのエビデンス構築による具体性の高い情報をもっとも活用しやすくなるのではないかとのことでした。



#### 【急性期から地域につなげるフレイル対策最前線】

小川 真人先生、山口 良太先生、永井 宏達先生の3名により、それぞれの立場からフレイルの現状・対策についての講演とディスカッションがありました。入院そのものがフレイルを誘発したり、入院を契機に悪化するため、入院前や入院直後からの早期アセスメントと、多職種を踏まえた病院・在宅での共同した包括的な介入が必要です。フレイル対策のPDCAサイクルをしっかりと行うことで、フレイル予防のみならず改善にも寄与できる可能性があり、また、継続した評価によって、具体的な予防活動を見出すことができることを実際の取り組みとしてデータを用いてお話しくださいました。フレイルには身体活動を中心とした介入によって予防、維持改善の効果が期待できますが、まだまだ報告数が少なくエビデンスとしてはやや弱いの現状です。介護予防と保健事業の両面から対象者を支援するための仕組み作りが必要であり、連携・情報共有の重要性を認識できました。





**【課題解決に必要なデザイン思考】**

株式会社LICOSの川内 雅和先生にご講演頂きました。「デザイン思考」について、デザインとアートの違いといった点からわかりやすくご説明頂きました。デザイン思考とは順序立てて何かを制作する・考案する時の考え方、また、正しくニーズ・課題をみつけて、解決に導くためのクリエイティブな考え方とのことでした。課題解決事例も含めて紹介され、地域自治体の抱える問題等、デザイン思考を種々の課題解決手段の一つとして活用することで、理学療法士活躍のフィールド・職域拡大につながるとご講演頂きました。



今回の学会に参加し、次々とアップデートされる理学療法の新展開についていくためには、個々の能力研鑽に留まらず、多職種との共同が重要であることを改めて実感することができました。今後も理学療法のさらなる発展を期待したいと思います。ご参加いただいた先生方、準備に携わっていただいた先生方ありがとうございました。

広報部 筒井 章悟(兵庫しあわせ訪問看護ステーション)  
前川 健一郎(神戸リハビリテーション病院)  
濱田 大介(東灘しあわせ訪問看護ステーション くるる)

**教育講演**

**【地域包括ケアシステムの中で輝く理学療法  
次世代の地域課題の解決に期待される  
理学療法士の新たな役割とは】**

ほっとリハビリシステムズの松井 一人先生にご講演頂きました。2035年問題により、理学療法士の需要と供給のバランスの崩れが懸念されており、その中で超高齢者に対する理学療法のパラダイムシフトが必要であるとお話がありました。人生の右肩下がりに差し掛かる方の目標設定のために希望や困り事をいかに理解し、出来る活動としている活動のギャップを埋めるかという支援も主軸になり、地域での「マネジメント」が理学療法士において重要であるとのことでした。今回のご講演で地域包括ケアシステムの中で、理学療法士の新たな役割を認識してきた方も多いのではないのでしょうか。



PT・OT・STのための総合オンラインセミナー  
**リハノメ** 臨床・研究・マネジメント  
全てのヒントがここにある

**リハノメ 5つのポイント**

- 1 どこでも学べる  
オンデマンドでいつでもどこでも学習できる
- 2 充実のコンテンツ  
充実のコンテンツでたっぷり学べる  
毎月新規動画を追加予定!
- 3 豪華講師陣  
各分野のスペシャリストがわかりやすく解説
- 4 定額見放題  
定額制だから何度見ても何時間見ても安心
- 5 配信スケジュール公開  
毎月追加される動画の内容と登壇する講師を事前に告知

月々2,181円(税込)~  
ご視聴できます!

<https://www.gene-llc.jp/rehanome/>  
最新情報、お申込みはこちら **リハノメ** 検索

株式会社 gene セミナー事業部 ☎052-325-6611  
〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1-26-12 IKKO新栄ビル6階

リハビリテーションを「かたち」にする会社 **gene**

人にやさしい人になる

PHYSICAL THERAPY ● 理学療法学科 ● OCCUPATIONAL THERAPY ● 作業療法学科 ● SPEECH THERAPY ● 言語聴覚学科 ●

**HRC** 関西総合リハビリテーション専門学校

E-mail [krc@junshin.or.jp](mailto:krc@junshin.or.jp) 〒656-2132 兵庫県淡路市志筑新島 7 番 4  
<http://www.krc-net.jp/> TEL.0799-60-3600 FAX.0799-60-3610

# スポーツ活動支援部 × 資料調査部 東京2020パラリンピック競技大会 日本代表アスリートへのインタビュー(前編)

～日本代表アスリートへのインタビューからPTの関わり方、支援方法のヒントを探ろう！！～

昨年、東京2020パラリンピック競技大会が開催され、(公社)日本理学療法士協会では、大会のサポートボランティアを募り、理学療法士が大会に参加するなど、スポーツ支援の分野で理学療法士が果たすべき役割は多いと思います。理学療法士のなかにはスポーツ分野に携わりたいと考える方も多いのではないのでしょうか。

一方で、理学療法士において、パラスポーツやパラリンピック競技をされている方々への支援を行った経験がない方が大多数であると思います。日々の臨床のなかで、目の前の患者様がスポーツに関わりたいたいといった要望を持っていた場合に、どのように導けばよいのでしょうか。今回、パラリンピック競技のトップアスリートに対して、パラスポーツを始められた当時の経験やセラピストとの関わりなどのお話をお伺いしました。

パラスポーツやパラリンピック競技の道へ支援する方法や手段を学び、患者様の可能性を広げるための視点をもつきっかけとなりましたら幸いです。

## I. インタビュー参加者の紹介

(資料調査部メンバー)

部長	金岡 啓(さんだりハビリテーション病院)
オリパラ事業担当	山下 知映(西宮協立リハビリテーション病院)
	林 穂乃花(西宮協立脳神経外科病院)
	柿原 一登士(順心淡路病院)



### 【パラアスリートの紹介】

## 倉橋 香衣(くらはし かえ)さん Kae Kurahashi

株式会社商船三井所属。神戸市須磨区出身。  
東京2020パラリンピック競技大会、車いすラグビー日本代表  
車いすラグビーは男女混合の団体種目であり、  
女子選手で唯一代表入りしました。  
結果は見事、銅メダルを獲得されました。

Photo: Sadato Ishizuka (公式プロフィールから)

大学3年生のとき、トランポリン部での試合前練習で頸髄損傷を受傷しました。鎖骨から下の感覚がほとんどなくなり、肩と腕の一部しか動かせなくなりました。それでも悲観することなく、大学への復学を目指して懸命にリハビリに励まれました。ある日、車いすラグビーに出会いすぐにその激しさに魅了されました。



東京都庁ホームページより



東京パラリンピックにて銅メダルを獲得

## 【インタビューにご協力いただいた方】



兵庫県立リハビリテーション中央病院  
**安藤 芽久美** 先生  
(作業療法士)

受傷後、入院中に担当として当時、倉橋さんの訓練に従事されました。退院後の障害者支援施設「自立生活訓練センター」に入所したのちにも多く関わられました。施設退所後も連絡を取り続け、現在は友人の一人として支えています。



兵庫県立障害者スポーツ交流館  
**清水 真澄** 先生  
(理学療法士)

当施設で障害者スポーツ指導員として従事されています。当時、倉橋さんが当施設を利用された際に指導員として、倉橋さんを支援されました。



北播磨総合医療センター  
**三星 健吾** 先生  
(理学療法士)

兵庫県理学療法士会スポーツ活動支援部部長、アスレティックトレーナーとして、様々なスポーツ現場でご活躍されています。東京2020パラリンピック競技大会では、シッティングバレーボールの種目にてご活動されました。

## Ⅱ. インタビュー内容

### ①【“パラスポーツの道”にすすむきっかけ】

柿原(以下、柿)：本日はよろしくお願ひします。

さっそくですが、パラスポーツをはじめられたきっかけを教えてください。

倉橋さん(以下、倉)：けがをしたばかりの頃は障害者スポーツにどのような競技があるか知らなかったですし、自分に何があてはまるのか、何ができるのかっていうのも全然分からなかったですけど、ぼんやりとなにかしたいなどは考えていました。リハビリをして自立を目指していくうちに色々なスポーツを経験して、そのなかで一番楽しく、競技としてやっていきたいと思ったのが車いすラグビーでした。

柿：どこの施設で経験されたのですか。

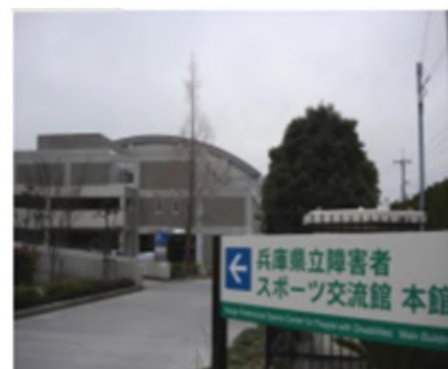
倉：最初は自立生活訓練センター(以下、センター)に入っ



たときに、兵庫県立障害者スポーツ交流館(以下、交流館)で体育の訓練や色々なスポーツを経験しました。車いすバスケットや水泳、陸上は走ったりもしたりしました。あと卓球もしました。復学するために埼玉県国立障害者リハビリテーションセンター、自立訓練部に入りました。そこで、車いすラグビーに出会いました。



自立生活訓練センター(兵庫県神戸市)



兵庫県立障害者スポーツ交流館(兵庫県神戸市)

林：もともと体を動かすのが好きだったのですが、受傷してからどのタイミングで、やっぱりスポーツしたいなと思われたのですか。

倉：受傷直後のICU入っている時とか、自分がどれくらい動けるかもわからない状態の時でも、階段をおんぶしてもらえば体育館に行けるかなとか、寝たきりの時から体育館に行くことばかり考えていました。大学の

## ②【「兵庫県立障害者スポーツ交流館」との出会い】

柿：けがをされて最初は急性期や回復期病院でもリハビリされたかと思いますが、交流館はどなたにすすめられましたか。

倉：誰かにすすめられたというよりは、兵庫県立総合リハビリテーションセンターの敷地内に体育館があり、病院に入院中は行くことができないのですが、センターに入所してからは体育館に通うようになりました。

柿：倉橋さんにとって交流館を利用して、よかったことはありますか。

倉：体育館に行ける！というだけでも私はうれしくて、そこで実際に体を動かすことができることがうれしかったです。あと交流館のトレーニングジムには車椅子のまま利用できるマシンもあります。障害が重い分、他の選手のように難しいこともありますが、交流館のスタッフはトランスを手伝ってくれたりもするので、本当に利用しやすい施設です。

柿：交流館ではパラリンピック競技を目指しているひと以外もおられますか。

清水先生(以下、清)：はい。競技としてだけでなく、様々な目的で利用されています。また身体障害のみではなく、精神障害、聴覚障害、視覚障害の方も利用されています。

山下(以下、山)：倉橋さんは、交流館で他の利用者さんと印象に残ったエピソードなどはありますか。

倉：センター入所中に一緒にリハビリや訓練をした仲間とスポーツすることは楽しいし、入所中のおもしろくないことも仲間同士で体を動かしているとがんばろうと思えました。その当時の仲間とは今でも兵庫に戻ったときに、一緒にスポーツしたりしています。一生の関係だろうなと感じています。

友達がお見舞いに来てくれた時にはパラスポーツって何があるんやろ?とか、障害の人でも何かスポーツあるんやろ?とか、どんなスポーツがあるかは知らなかったけれど、その時からスポーツのことは考えていました。実際に、競技に触れたのはセンターに入ってからですね。

山：今でもスポーツで繋がっているというのはいいですね。

倉：ご飯行こうとかで集まったりもしますが、今回のお正月は外で会う時間がないと思ったら私が体育館に行くというと、みんなが集まってきてくれました。

山：交流館にはたくさんのひとが、気軽に出入りされているのですね。

清：今はコロナのために自由にとはいかないですが、いろんな方がこられます。最近印象的だったのが、一般の方とも同じトレーニング室を使うこともあるのですが、障害のある利用者さんにも声をかけていました。交流館では、壁みたいなのをあんまり感じたことがなく、すごくフレンドリーで同志といった感じです。このお正月に倉橋さんがきた時も、今入所されていて車いすラグビーをしている方が倉橋さんを目指して一緒にひとつのボールを追いかける姿や、倉橋さんが若い子達にポジションの取り方とかを教えているところは、私もすごくいいものが繋がっていてありがたいなと思っていました。

林：倉橋さんは、実際に体育館に行ってみて、精神的にも違いはあったのか気になります。

倉：病院のリハビリ室も広くてその周りや庭をぐるぐる車いすで走ってたんですけど、体育館に行くようになってからの違いは、何かしらのスポーツができること。道具を使ったり、他のひとと一緒に体を動かしたりすることが出来るのが大きな違いだったかなと思います。体育館へ行くと、1個行く場所が増えたところでも気持ちも違いました。



兵庫県立障害者スポーツ交流館  
(兵庫県神戸市)



### ③【入院中やパラスポーツを始めてからのセラピストとの関わり】

柿：セラピストとの関わりについてもお伺いしたいのですが、入院中やパラスポーツを始められた後も、セラピストと関わってよかったことや、何かエピソードはありますか。

倉：入院中から病室にいることが嫌いで、とにかく体を動かしたかったので、PT室やOT室にしょっちゅう行って、自分のできることを教えてもらっていました。実際にパラリンピック目指すようになってからも、肩を痛めたこともあったけど、今でも安藤さんに連絡とってトレーニングや車椅子のことで分からないことがあったりして教えてもらいました。他のセラピストとも年賀状やラインで繋がっていたりしています。今まで関わってきたセラピスト達とも繋がっているから、競技をしながらも今の生活が成り立っているんだと思います。

柿：リハビリで大変だった、苦労したエピソードはありますか。

倉：リハビリ自体は楽しかったですが・・・。トランスを教えてもらっても、なんでこんなうまくならへんの、いわれた通りにしているのにと、動きを習得するまでの苦労はありました。肩が痛くなって2年以上、付き合いながら競技していますが、まだ痛い、なんで痛いんとか思いますし、昔できていたプッシュアップの動き

が悪くなったとか、できていたはずのことが下手になっているとか、日常生活を送ってだんだん自分のやりかたに変わっていったら、せっかく病院で綺麗な形をおしえてもらったのが、ちょっとずつずれていたこととか、そういうことに対してもどかしさと、もう一回早くできるようになりたいっていうのはあります。

三星先生(以下、三)：競技を始めてからもトレーニングの具体的なエピソードはありますか。

倉：そうですね、肩を壊したきっかけが、パラリンピックを目指すとなった時、自分の能力にあってないトレーニングをがむしゃらにやっていた時期があったんです。車いすの漕ぎ方も、変といわれるまで気づかなくて、肩に負担のかかる、自分の使いやすい所を使ったやり方で動いていたことがありました。その時にPTのトレーナーさんが、頸損をよく理解してくれていて、ちゃんとしたアドバイスをくれてそれを元にトレーニングしました。走るとか、止まるとか、ターンする時など、使いやすい所だけ使うのではなく、残存機能を最大限に活かして行うように意識しています。

三：やっぱり、いいトレーナーの方に出会ったから修正できたということですね。

倉：それはかなり大きいですね。

### ④【セラピスト視点でのパラアスリートに対して大切にしていること】

柿：安藤先生、倉橋さんのように今後パラスポーツにすまれる方に対しての支援のコツなどはありますか。倉橋さんへの支援のなかで、工夫されていたことはありますか。

安藤先生(以下、安)：倉橋さんとは、もう10年の付き合いになるのですが、出会った当時は私も経験の少ないセラピストで、若くて、高位頸髄損傷の方を担当するのが初めてのケースでした。私も手探りの状態でしたけど、そこが一番よかったのではないかと感じています。私も答えが分からない、倉橋さんは答えを言われることが好きではない。ふたりであーでもないと言いながら、何かをできるようになりたいといわれたら一緒に考えて、うまくいかなかったり、試行錯誤を繰り返したり、それを続けていったことが一番よかった点かと思います。倉橋さんがセンター退所されてからは、いい友人関係で、たまに自宅に行って、環境の調整をしたり、コンディションの調整をしたりしています。

スポーツを続けていくにも、パフォーマンスを上げていくにも、生活基盤がきちんとしていること、倉橋さんがスポーツに打ち込むための土壌を安定させるということに重きをおいて、生活を安定させ、心理的なサポートを少々できたらなと思っています。若い方、ポテンシャルの高い方を担当していくという点では、自分で模索をしていくという経験をリハの時間で一緒に構築していくというのがとても大切ではないのかと思います。今も交流館が近くにありまますので、脊髄損傷・頸髄損傷・切断・CVAの方達を、主治医と相談して、一緒に体育館に行って、スポーツを経験してもらって、競技車に乗ってみたり、ボールをなげてみたり、狭いリハ室ではなく広いところで動く経験を積んでもらって、ご本人たちが自分の可能性に気付いたり、楽しいなと思ったりする経験を積んでもらえるように、最近がんばっているところです。

## ⑤【スポーツ支援に踏み出そうとしているセラピストへ】

柿：パラリンピックをみて、パラスポーツに興味を持ったセラピストも多いと思います。何から始めればいいのか、悩んでいるひとも多いので、アドバイスいただけますでしょうか。

倉：車いすラグビーに関していうと、資格がなくても誰でもスタッフはなれますが、障害者スポーツをみる機会があるのが、やっぱり医療従事者が多いので、私の周りにはPTさんがたくさんいます。誰でも関わろうと思えば、自分の興味のあること、パラスポーツではなくてもちょっと体動かしたいなと思う人がいれば、一緒にやってみるのはどうでしょう。私は入所中、近くに体を動かす場所やいろんなスポーツをしている人を近くでみたというのがあったので、埼玉に行っても、自分から参加することができました。安藤さんが言っていたように入院中から体を動かすきっかけとか、スポーツに限らず、いろんなことを経験するうちのひとつとしてスポーツがあったら、自分はこんなことができるのかなと患者も考えると思います。もっと気楽にどんなことでも体を動かすとか、この患者さんどんなことが好きなのかとか、ただ興味があるでもいいんじゃないかなと思いました。車いすラグビーに関しては、FBとかツイッターとかでチームの情報を発信しているので、そこに色々なひとから、スタッフに興味がありますとか、一度見学に行きたいですとか連絡が来ることがあります。そういうところから、一緒にチームメイトになってもらったり、試合で戦ったりかしています。実際に私たちはスタッフがいないと競技ができないので、来るもの拒まずで、一緒に頑張りましょうという受け入れ体制なので、大丈夫だと思います。

金岡：そんな堅苦しく考えず、まず現場にいき、チームに入れてもらって、それがお互いにとっていいものになっていくのでしょうね。

清：交流館では週3くらいで車いすラグビーの練習を行っ



ているので、是非見に来てください。現場を見ることと、選手と関わることで色々な気付きを病院へ持って帰ってもらうのがまず大事なのかなと思います。安藤先生が病院から何人か患者さんを連れてきてくれて一緒に車いす漕いで何かしようというのをやってくれています。私はそれがセラピストと患者さんのいい交流であり、この患者さん本当はこんなこと出来るんだとか、笑顔を見ることのできる瞬間は嬉しいんじゃないかなと、傍からみて思っています。なかなか他の病院だと、連れてくることは難しいと思いますが、こんな所があるよと患者さんとかに教えて頂けたらと思っています。お正月に倉橋さんが来てくれた時に、ある選手が普段は私がテーピングを巻くのをお手伝いするんですけど、倉橋さんは口を使って自分で巻いていたから僕もやってみますと言って、自分で巻いていたんです。そうやって、今入所している人や患者さんの出来ることが増えてくるのが良いことだなと感じています。そういう人達をセラピストが増やせたら、何かしら病気とか障害があっても、出来ることたくさんあるし出来る人が実際にいるということを知っていたら、リハビリも頑張れるのではないかなと思うので、そのように関わりを増やしていけたら全ての人にメリットがあると、いつも現場で感じています。

安：私はOTなので、PTさんとは視点が少し違うところがあるかもしれませんが、スポーツをするのも私の中では社会参加の一步という趣味の1つを応援している気持ちがあります。倉橋さんの変化を見てると社会と繋がるものを持ったことで、活動範囲の広さとバリエーションの多さ、周りの人からもらった刺激の多さ、人との繋がりはずごく大きいなと思います。車いすラグビーに出会ったから彼女は仕事を得て、今大きく羽ばたいている所をずっと目の当たりにしているので社会に繋がる術としてすごく大きいなと思っています。そういう面でスポーツを支援するためのお出かけの練習とか、お化粧の練習とかそういう所を大事にはしています。スポーツをすることの支援もすごく魅力的とは思いますが、それを続けるための支援もスポーツの支援の一つだなと思っています。

柿：今日はありがとうございました。とても緊張していましたが、貴重なお話を聞かせてもらって、とても勉強になりました。これからも、みなさまのご活躍、期待しています。ありがとうございました。

東京パラリンピック競技中の写真

# 各部だより

## 保健福祉部

### 研修報告「姿勢と動作の理解とその評価」

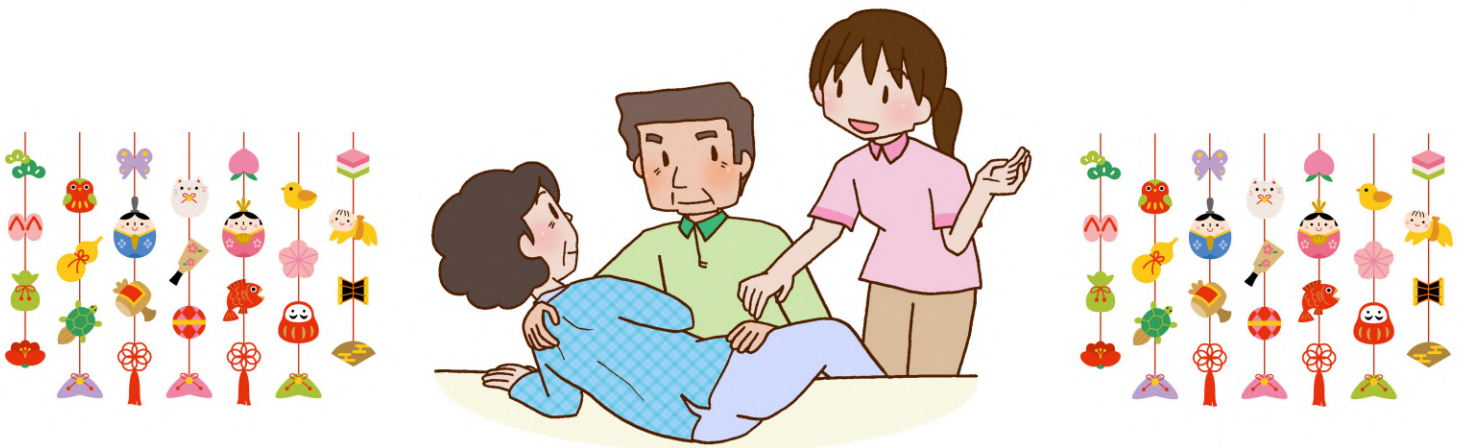
2021年12月12日(日)、実技研修「姿勢と動作の理解とその評価」を開催しました。今年度は『臥位姿勢・寝返り動作・起き上がり動作・寝転び動作』がテーマで、52名の会員にご参加いただきました。

この研修は一昨年までは相互実習で行っていたものですが、昨年度よりオンライン開催となり、対面による実習で直接感じてもらっていたことを「オンラインでどのように表現すれば参加者に理解してもらえるか」が難題で、準備段階ではその議論に何時間も費やすことになりました。様々な視点でディスカッションを重ねた結果、①姿勢と動作を整理するための講義、②視覚的イメージを深めるためのライブ中継によるデモンストレーション、③参加者自身による体験、という3つの構成要素で進めることになりました。また、姿勢や動作ごとにグループディスカッションの時間を設け、参加者の理解度の確認や臨床場面での疑問や悩みの共有も行いました。どのグループも活発な意見交換が行われ、体験の時間では姿勢・動作がどのような状態であるかを繰り返し確認してもらうことができました。

アンケート結果では、参加者全員から「とても理解できた」、「理解できた」という回答をいただき、姿勢・動作を自分で体験することで「基本的な内容であったにも関わらず視点が増えた」、「患者や家族への動作指導や他職種への伝達に活かしたい」、「相手に伝わる伝え方を学ぶことができた」と有意義な学びになったことがうかがえました。

今年度はライブ中継によるデモンストレーションにチャレンジしたことが参加者の理解度upに役立ったと考えていますが、担当スタッフとしては時間配分やカメラワークなど新しい課題も発見できたため、今後の企画でもさらに会員のみなさんの臨床に役立つものにできるよう、工夫を重ねていきたいと考えています。

中村 竹男(訪問看護・リハステーション ラヴィー)



10学部7研究科、総合大学で豊かな人間性を育む

### 総合リハビリテーション学部

- 理学療法学科**
  - 理学療法士国家試験受験資格
  - 健康運動実践指導者認定試験受験資格\*
- 作業療法学科**
  - 作業療法士国家試験受験資格
- 社会リハビリテーション学科**
  - 社会福祉士国家試験受験資格\*
  - 精神保健福祉士国家試験受験資格\*
- 総合リハビリテーション学研究科**
  - 大学院 修士課程・博士後期課程

\*指定科目の単位修得者が取得できる資格。

神戸学院大学

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518  
有瀬キャンパス TEL(078)974-1551(代表)

～精鋭の教員陣による人間教育～

### リハビリテーション学部

#### 理学療法学科

リハビリテーション学部／経済学部

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6  
TEL:078-845-3111(代表) FAX:078-845-3200

STYCHESKUL 神戸国際大学

# スポーツ活動支援部

## シッティングバレーボールzoom勉強会活動報告

スポーツ活動支援部では、毎年2月に開催されるシッティングバレーボール大会のコンディショニングサポートを実施しています。昨年に続き今年もコロナの影響でサポートが中止となりました。2022年1月22日にzoomにて「シッティングバレーにおける肩関節の傷害」をテーマに肩の急性外傷・慢性傷害への対応をグループワークで評価・治療のディスカッションを行いました。



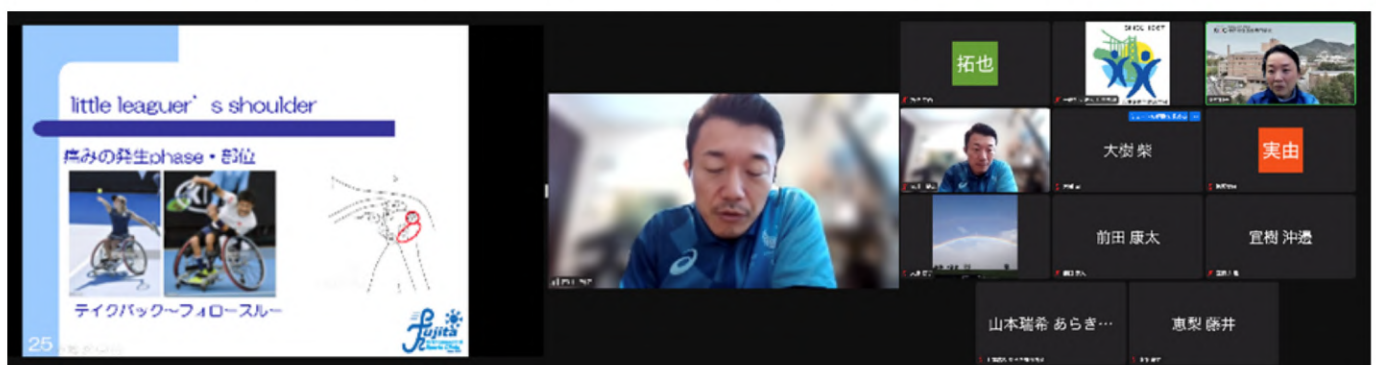
(感想文)

今回、スポーツ活動支援部の勉強会に初めて参加させていただきました。急性期での対応の仕方は普段の臨床では携わることの無い部分であったので、講義やグループディスカッションを通して必要な観点や評価、処置を知ることができました。慢性期の内容は動作方法の改善という観点では普段の臨床と似ていると感じましたが、同時にスポーツ特有の観点が必要だと思いました。肩-肩-肘ラインやゼロポジションなど評価の基準となる知識を知ることができたのは新鮮で興味深かったです。

越智 貴則(兵庫県立リハビリテーション中央病院)

## 車いすテニスWeb勉強会活動報告

2022年2月11日、車いすテニス大会「KOBE OPEN2022」に向けてのWeb勉強会を開催しました。講師は藤田整形外科スポーツクリニックの古川 裕之先生と神戸総合医療専門学校 of 安村 明子先生。内容は車いすテニスの競技特性、車いすテニスに多い傷害、テーピング方法、物理療法など車いすテニスサポートに参加したことがない方にも分かりやすい基本的な内容でした。



(感想文)

自分自身、車椅子テニスに関わる事が無かったため、今回の勉強会は大変興味深いものでした。車椅子テニスの特徴はもちろん、傷害に対する考え方や技術など今後スポーツ全般に関わる際の参考になりました。また機会があれば参加させていただきます。

山本 瑞希(あらし整形外科)

コロナによりスポーツ活動支援部として2022年4月7日から10日まで開催予定のKOBE OPENへのサポートに参加するか検討中です。方向性が決まり次第メールにてご案内いたします。よろしくお願いたします。

# 神戸西支部 × スポーツ活動支援部

スポーツ活動支援部では、兵庫県理学療法士会の支部化に伴い、各支部にてスポーツ現場に必要な知識と技術の伝達を目的に講習会を開催しております。

今回は1月15日に「肘関節・手関節障害のスポーツ理学療法」について、神戸総合医療専門学校の安村 明子先生に講義をして頂きました。Zoomでの開催となり、例年のような実技を中心とした内容にすることはできませんでしたが、テニスや野球など現場での経験談を内容に盛り込みながら講習会を進めていきました。参加者からも活発に質問が飛び交い、大変有意義な時間となりました。

まだまだCOVID19の影響は大きく、現場活動再開の見通しは立たない状況ではありますが、県内全域でしっかりと選手のサポートが出来るよう今後も準備を整えていきたいと思っております。



## (感想文)

今回、肘・手関節のスポーツ障害について講義を受けました。私自身、野球をしており肘の怪我也経験していますので野球肘の分類や受傷のメカニズムなど凄く興味がありました。また、正常の投球フェーズからどこが逸脱してどこの部位に痛みが出ているのかなどの評価方法を理解することが出来ました。さらに、近年は投球数の制限などガイドラインも出ていることから成長段階でのオーバーユースを防いでいることが分かりました。まだ実際に現場に出て選手のケアや指導をする機会はありませんが、コロナが落ち着いて活動が出来る時までしっかり勉強に励みたいと思っております。

村上 祐二(名谷病院)



**女性だから、できるケアがある。**  
女子大学で、女性のための理学療法を学び、リーダーシップがとれる理学療法士へ。

看護リハビリテーション学部  
理学療法学科

**甲南女子大学**  
KENAN WOMEN'S UNIVERSITY

〒658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23

理学療法学科公式サイト 理学療法学科公式 Instagram

医療で社会をつなぐ  
「医療社会人」を目指す

学校法人 平成医療学園  
**宝塚医療大学**  
TUMH TAKARAZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL and HEALTH CARE

0120-00-1239  
〒666-0162  
兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘 1

保健医療学部  
宝塚医療大 検索

理学療法学科 ■ 柔道整復学科 ■ 鍼灸学科

http://www.tumh.ac.jp/

# 東播磨支部 × スポーツ活動支援部

スポーツ活動支援部では、兵庫県理学療法士会の支部化に伴い、各支部にてスポーツ現場に必要な知識と技術の講習会を開催しております。今年度は東播磨支部及び神戸西支部にて頭頸部、肩、体幹、肘・手関節、股関節、膝、足関節のスポーツ理学療法について開催しています。例年は実技を中心に行っていますが、今年度も、COVID-19の影響でZOOMを用いた座学研修に変更しております。

2月27日日曜日、東播磨支部と「肩関節のスポーツ傷害に対する理学療法」について、スポーツ活動支援部の三星 健吾部長に講義をしていただきました。



現場で一緒に悩みましょう

(感想文)

今回、肩関節のスポーツ障害についての研修を受けて、必要とされる肩関節機能や実際に肩関節にかかる負荷量、生じやすい障害などを学びました。その中で各々の競技特性を理解することの重要性を再認識しました。正しいフォームだけでなく、競技ルールや練習内容、その選手に求められている役割とその動作も理解することで、選手のプレーに応じた具体的なリハビリテーションの提供が可能になると思いました。また研修会では少人数でのグループディスカッションの場が設けられていました。普段よりリモートでは発言しにくいと感じてしまうのですが、少人数制にすることにより発言しやすい環境となり、多くの意見交換を行うことができましたと思います。先生方の貴重な経験や考えを伺うことができ、有意義な時間となりました。

石原 知佳(松本病院)

今後もスポーツ活動支援部は各支部と協力し、スポーツ現場で活躍したい理学療法士をサポートしていきます。勉強会やスポーツ現場でのサポートに興味のある方は、右記のQRコードにアクセスし、スポーツ活動支援部サポートスタッフへご登録下さい。メールにてご案内いたします。

「選手は、みなさんのサポートを待っています！」



リハビリ訪問看護ステーション 播磨 アスリートサポート部 ソーシャルメディア広報部

## Steps

想いをカタチに

予防医療部 | ウィメンズヘルス部 | IoTサポート部

兵庫事務所 TEL 078-599-7990 FAX 078-330-3754

〒652-0033 神戸市兵庫区西上橋通 1-1-23 ヴィラ神戸 II 101

神戸西事務所 TEL 655-0013 神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203

誰かに「してもらう」から 自分で「する」へ

介護事業分野

- 通所介護
- 訪問看護
- 訪問介護
- 居宅介護支援

調査・研究室

- 社会や業界の情勢・動向調査
- 新規企画・開発
- 社内外へ啓発活動
- セミナー事業
- 大学共同の研究活動

その他事業

- レストラン
- 高齢者向け賃貸マンション
- 就労支援
- 児童発達支援・放課後等デイサービス
- アパレル事業

株式会社スイッチオンサービス

〒664-0006 兵庫県伊丹市滝池3丁目16-10

TEL: 072-777-3205

求人はこちらまで

# INFORMATION

## 小川かつみ氏 公式YouTubeチャンネルを開設



参議院議員であり理学療法士である小川かつみ氏が公式YouTubeチャンネルを開設しました！  
第1弾のスペシャルゲストは菅義偉前総理をお招きしています。

- ①携帯・スマホ料金の値下げ実現
- ②東京オリンピック・パラリンピック開催の想い
- ③新型コロナ対策
- ④リハビリテーションと理学療法士



[こちらをクリック](#)

YouTubeチャンネル開設について  
プレスリリースも行われています。  
こちら是非ご覧ください。

[こちらをクリック](#)



## PROFILE

### 小川 かつみ

1951年8月31日生まれ。福岡県北九州市出身。現在は熊本県。九州リハビリテーション大学卒業・熊本商科大学卒業後、理学療法士としての臨床を経て33年間理学療法士養成教育にあたる。熊本県理学療法士会会長、日本理学療法士協会副会長・事務局長などを歴任。2016年参議院議員通常選挙にて初当選。2020年参議院厚生労働委員長。現在は参議院厚生労働委員会理事、日本理学療法士協会理事などを務める。

創立 **48** 年

病院を母体とする医療の総合教育校

理学療法士科 作業療法士科  
診療放射線科 造形工学科  
視能訓練士科 言語聴覚士科  
福祉工学専攻科

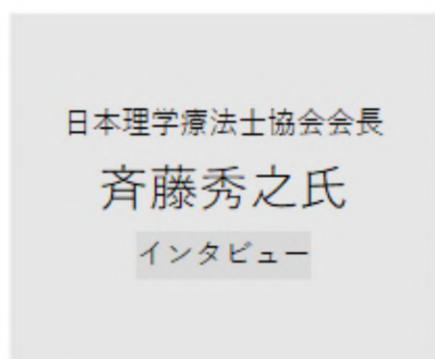
1973 医療法人社団 慈恵会  
**KCC** 神戸総合医療専門学校

〒654-0142 神戸市東灘区東灘7丁目1番11号  
TEL.078-795-8000 (内線) TEL.078-795-8100 (広報)  
<https://www.kobecc.ac.jp> 神戸総合医療 神戸総合医療



# INFORMATION

## 継続的な学習で理学療法士の質を担保する 新生涯学習制度の狙い



[こちらをクリック](#)

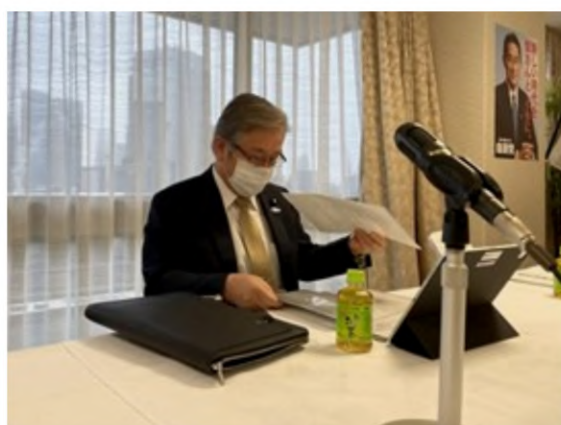
日本理学療法士協会が主導する新生涯学習制度が2022年4月よりスタートします。なぜいま生涯学習制度の一新が必要なのか。そして新制度の導入で理学療法士という専門職は何を目指すのか。2021年6月から協会会長に就任された齊藤秀之氏に制度設計の目的と求める理学療法士像をインタビューした記事が医学会新聞に掲載されました。

[新生涯学習制度 関連動画]  
新生涯学習制度を中心に動画が  
公開されています。是非ご覧ください。

[こちらをクリック](#)



## 厚生労働部会に「リハビリテーションに関する小委員会」設置 第一回会議が開催されました



小川克巳議員の功績から、自由民主党厚生労働部会内に「リハビリテーションに関する小委員会」が設置され、2月10日に第1回会議が開催されました。4月までに6回で取りまとめ、親会である厚生労働部会の了解後に、7月に向けた政策集や骨太の方針に文言を残すための委員会であり、小川克巳議員のための肝いりの委員会です。国民目線に立った適正なりハビリテーション提供体制の構築に向け、リハビリテーションに焦点を当てて議論が行われる貴重な機会になります。



[こちらをクリック](#)





～生物心理社会的モデルに基づくアプローチ～

# 伴歩

ばんぽ

## 第33回 兵庫県理学療法学術大会

日時／2022年8月21日(日)

会場／洲本市文化体育館 〒656-0021兵庫県洲本市塩屋1-1-17

大会長／畑山 浩志 洲本市役所 健康福祉部 介護福祉課

主催／一般社団法人 兵庫県理学療法士会 担当支部／淡路支部



公式 HP 兵庫県理学療法学術大会   
<https://hyogo-pt.or.jp/gakkai/>



運営事務局：㈱コンベンションアカデミア 〒113-0033 東京都文京区本郷3-35-3 本郷UCビル4階 TEL:03-5805-5261 FAX:03-3868-2113 E-mail:hyta@coac.co.jp

**演題募集中！！ 3月31日まで！！！！**

# 会長 行動録

- 12月16日 拡大三役会出席  
主には将来を含めて士会の事業予算の方向性について話し合った。
- 12月17日 理事会出席  
来年度予算について集中的に審議した、予算の全体的な枠組み、現状の会費について、検討した。  
研修会の方法、新生涯学習プログラムへの対応をはじめ大目標に向けた予算などを話し合った。
- 12月18日 拡大理事会出席  
“日本理学療法士連盟主催「理学療法の未来を語る会」参加”  
講演会：塩崎恭久氏 元 厚生労働大臣
- 12月21日 近畿理学療法学会大会準備委員会出席  
当日のスケジュール調節、広報の状況などの一般演題発表の方法 などの検討。
- 12月23日 令和3年度第2回兵庫県医療職団体協議会出席  
第48回医療職団体協議会研修会について検討した。
- 12月24日 大串衆議院議員事務所訪問  
自民党厚労部会長代理、理学療法士問題を考える小委員会議員である大串議員に理学療法士の現状についてお話しした。  
加田参議院議員事務所訪問  
訪問リハの問題、急性期病院での問題など現状の理学療法士の問題をお話しし、今後の活動について相談した。  
盛山参議院議員事務所訪問  
訪問リハの問題、急性期病院での問題など現状の理学療法士の問題をお話しし、今後の活動について相談した。
- 12月27日 医師会、看護協会、薬剤師会、栄養士会などの医療関係団体事務所訪問  
今後のご協力についてお話しした。医師会長とは今後お会いできる機会が頂ける可能性がある。  
兵庫県庁（健康福祉部健康局健康増進課・少子高齢局高齢政策課）  
本年度のお礼と今後のご協力についてお話しした。  
神戸市市役所（福祉局介護保険課、健康局健康企画課、保健所口腔保健支援センター）  
本年度のお礼と今後のご協力についてお話しした。
- 12月30日 新人研修会挨拶ビデオ撮影
- 1月11日 空知兵庫県医師会長と面談  
理学療法士会の現状と県下における地域リハビリテーションに対する取り組みについて医師会の現状をお聞きすることができた。  
近畿理学療法学会大会準備委員会出席  
学会当日最終調節など。  
日本理学療法士会第2回「私的勉強会」出席  
斎藤協会長との第2回私的勉強会に出席した。検討内容は以下の通り。  
①協会では会員の入会率の改善の一つ施策として養成校への働き掛けを考えている  
②コロナ克服・新時代開拓のための経済対策、公的部門における分配機能の強化等  
③看護、介護、保育、幼児教育など現場で働く方々の収入の引上げ等に関する本当の効果について  
④小川議員の応援について
- 1月12日 感染拡大に伴う近畿理学療法学会大会時の会議の実施について、斎藤協会長、山本事務局長と相談
- 1月16日 第61回近畿理学療法学会  
大会長、基調講演、特別シンポジウム司会を担当。1630名以上の参加者をえることができた。
- 1月20日 拡大三役会出席  
予算、来年度事業、広報戦略（紙媒体の是非）、近畿学会、政党との対応方法について検討した。
- 1月21日 理事会出席  
盛山議員と電話会談  
年末にご相談した再入院予防に対する対策に関しては、厚生労働省の見解と今後の方向性についてお話しした。
- 1月26日 役員研修会資料作成 27日の役員研修会資料作成、内容調整を行った。

- 1月27日 兵庫県理学療法士会役員研修会講演  
本年度から開始した役員研修会で本年度の士会事業の進捗、経過について報告した
- 1月28日 補助金獲得に関する会議出席  
岩田理事、小森理事と補助金獲得に関する会議を行った。来年度提出に向けて原案が概ね固まってきた。最終調整後次のステップへ。
- 1月29日 斎藤協会長と情報交換 以下の情報交換を行った。  
1. 処遇改善に関する閣議決定文章への職名表記に関する経緯(抜粋)。  
2. 屋外ポスター(報告)  
小川克巳議員事務所が添付の屋外掲示用のポスター(A1サイズ594×841)をご持参くださいました。会員の皆様の人脈で屋外掲示できる場所がありましたら小川克巳事務所に気軽にご連絡いただければとのことです。  
3. DX勉強会(報告)  
4. 小川克巳議員への応援垂れ幕(横断幕)案(お願い)  
5. 理学療法士有資格者を対象とした都道府県内各階級議員調査(お願い)  
前執行部時代から地方自治体において議員になられている理学療法士の組織化が課題であります。
- 2月1日 沖山理事と相談 役員研修会の公表について
- 2月3日 学校保健・特別支援教育担当者会議出席者調整  
山本事務局長と日本理学療法士協会学校保健・特別支援教育担当者会議への出席者調整を行った。  
兵庫県医療職団体協議会研修会の調整  
山本事務局長と兵庫県医療職団体協議会研修会への理学療法士会役割の調整を行った。
- 2月4日 石川連盟会長と相談  
補助金獲得に向けて議員への説明方法などについて相談した。  
参議院議員小川克巳事務所勉強会  
講師:日本年金機構副理事長(前厚生労働事務次官)樽見英樹  
テーマ:「リハビリテーション・介護分野におけるDX」について”  
脳性まひ等肢体不自由児者研修準備委員会出席  
3月に行う脳性まひ等肢体不自由児者研修会の調整を行った。
- 2月7日 斎藤協会長と情報交換 以下の内容の情報をいただいた。  
1. 医学書院「週刊医学界新聞」データ(共有)  
2. 自由民主党内に理学療法に関する小委員会が設置され、第1回(2月10日)が開催決定(ご案内)  
小川克巳議員の功績から、自由民主党厚生労働部会内に「リハビリテーションに関する小委員会」が設置される。4月までに6回で取りまとめ、親会である厚生労働部会の了解後に、7月に向けた政策集や骨太の方針に文言を残すための委員会である。なお2月10日の第1回には協会長が総論的俯瞰的な話題提供をする。  
3. 6年前の市区町村別得票数
- 2月8日 日本理学療法士協会大工谷理事と相談  
西宮市小学校におけるコミュニティスクールに理学療法士が関わっていただきたいという、相談を受けた。積極的にかかわっていく方向で検討するように伝えた。
- 2月9日 小川克巳事務所から相談 “小川克巳事務所より以下の相談があった  
お知らせ 小川かつみ公式YouTubeチャンネル  
対談—第1弾— スペシャルゲスト 菅前総理  
対談—第2弾— 日本理学療法士協会 副会長 内山靖先生
- 2月10日 樋笠理事、水田支部長、小山理事と会談  
大工谷理事より話の合った西宮市小学校におけるコミュニティスクールに理学療法士の活用について検討した。樋笠理事、水田支部長を中心に今後の活動について、西宮担当者へ相談しに行くことを決定、その後、大工谷理事に報告した。
- 2月12日 兵庫県医療職団体協議会研修会 研修会にて挨拶、座長を行った。
- 2月14日 小川克巳国政報告会出席および挨拶  
改めて代表議員が国政にいる意味を認識することができた。小川議員の功績としての自由民主党厚生労働部会内の「リハビリテーションに関する小委員会」設置など、適切な情報を会員の皆様にお伝えすることが非常に重要と感じた。



兵庫県社会福祉事業団  
総合リハビリテーションセンター  
兵庫県地域  
リハビリテーション支援センター



## 安尾 仁志 氏

### 略歴

- 2002年 大阪府立看護大学 医療技術短期大学部卒業
- 2004年 神戸大学医学部保健学科卒業
- 2004年～現在 兵庫県社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター

### 趣味

家庭菜園 ジャムづくり

### モットー

仕事は楽しむ

私は、神戸市西区にある総合リハビリテーションセンターで兵庫県地域リハビリテーション支援センターの事業担当をしています。現在は、市町村が行う地域支援事業等へPTをはじめとするリハ専門職の参画を推進するために、兵庫県内の市町村やPOSの3士会及び関係機関と協働して地域のネットワークをつくる取り組みを仕事として行っています。また、自分自身の実践の場として神戸市西区を中心に介護予防の取り組みやケア会議に参加をしています。

この事業を通して、これまで様々な縁で県内外問わず広く行政の方や地域リハに関わる方々に出会い、多くの貴重な経験をさせていただきました。そのおかげで今は模索をしながらも日々楽しく新たな発見や出会いに期待しながら仕事をしています。また、実際に地域に出て行政の方や他職種の方と介護予防や地域課題解決に向けた活動を行う中で、自分自身の専門性を改めて考えたり、これからの自分や自分の子ども達が暮らす地域の将来を考えたりする良い機会になっています。これからも、地域リハビリテーション支援体制を通して県内各地域の現場でリハ専門職が活躍できるように、微力ながら一歩ずつ取り組んでいきたいと思っております。

今回は、芦屋市で地域のネットワークづくりに熱く取り組んでいる芦屋市訪問看護ステーションの嶋田 尚徳先生を紹介させていただきます。

## 表紙写真

第61回近畿理学療法学会が2022年1月16日に「新しい知見・技術と理学療法の新展開」というテーマで、完全Web形式にて兵庫県で開催されました。今回の近畿学会に導入された「Event Hub」の活用により、ライブ配信はもちろん、アーカイブ機能、ライブ掲示板機能、学会前のイベントとお得感満載のシステムの中、総勢約2000名の参加がありました。

写真は開催メンバー。場所は本部が設置された神戸国際会議場にて。

県士会だより 第194号  
発行

一般社団法人兵庫県理学療法士会

発行責任者／間 瀬 教 史  
編集者／筒 井 章 悟

ホームページ  
<http://hyogo-pt.or.jp/>



## 一般社団法人 兵庫県理学療法士会

兵庫県理学療法士会事務所 所在地  
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 4階  
TEL 078-367-7311